

Hand in Hand

海を渡る鳥は、波間を漂う流木に憩うという。離婚—それは旅の半ばの一つの出来事。
新たな旅立ちをした女たちはいま手を取り合い、女であるがゆえの偏見と差別に向きあう。
ハンド・イン・ハンドは、生きやすい社会をめざし支えあう女たちの、流木である。

Vol. 223



燃える
燃え尽きる
暑さの中
涼し
笑み
ほろほろする
あ

感動する やわらかな心

- ハンドの夏合宿の第1回は箱根でした。ある会社の保養寮をお借りしたのですが、旅館と同じで朝10時のチェックアウト。全国から集まった同じ境遇の人たちが1分でも長く話し合っていたという思いに応えられず、翌年から埼玉県嵐山の女性教育会館に変えました。美しい景色や彫刻より、私たちにとっては、話して共感することが重要でした。
- あれから21年。2歳、3歳から母親と共に参加していた子どもたちの成長をまぶしい思いで眺め、不登校や暴力をみんな我が事のように心配し、家族のように感じてきた人たちもハンドを卒業していきました。
- この7月末の合宿は、徐々にその頃の人たちにも声をかけています。テーマはアンチエイジング。若いと思っても、からだはあちこちガタがきている。でも加齢と故障を嘆いていても始まりません。加藤シズ工さんは104歳の寿命を全うされましたが、私が親しく彼女のもとを訪ねるようになったのは96歳の時。階段から落ち、足を骨折したもののすぐ手術をしてリハビリを重ね、それ以降もお元気に一人暮らしを続けておられました。
- 当時46歳で、突然、見も知らぬ「国会」という世界にトラバユしてしまった私は、毎日ストレスの連続で、「もういやだー」といってはシズ工さんの家に駆けつけたのですが、彼女と話すと勇氣百倍で帰ってくる。人を元気づける才能のある人でした。いくつになっても「年だから」と思わない。常に社会のこと世界のことに興味を持っていて知的好奇心が強い。そのうえ、何にでも感動するやわらかな心の持ち主でした。
- 人生は平坦ではありません。なぜ自分ばかりがこんな苦労をするのかと思うことだってあるでしょう。でも、ひがんでいては歳をとるばかり。神様に愛されているからこそ苦難が与えられると言われたことがあります。うーん、あんまり愛されなくてもいい、とつい口応えしちゃいましたが、ま、そう思って乗り切るほうがいいかも。夏の合宿でお目にかかりましょうね。
(円より子)

【特集】子どもの気持ち～“思春期”編～

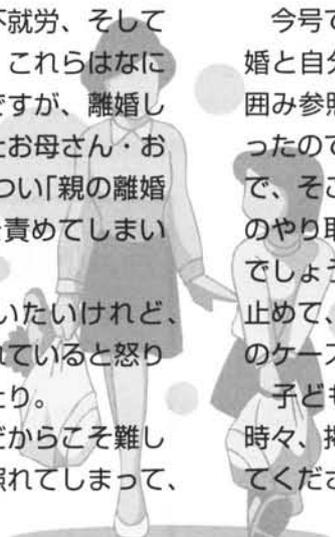
引きこもり、不登校、家庭内暴力、不就労、そしていろいろな事件を引き起こす子どもたち。これらはなにも離婚家庭にかぎったことではないのですが、離婚してシングルで一生懸命に子育てしてきたお母さん・お父さんは、そんな子どもの姿に、ついつい「親の離婚が原因なのかしら」などと考えて自分を責めてしまいがちです。

子どもの気持ちにきちんと向き合いたいけれど、日々の生活にまぎれてしまったり、疲れていると怒りが先にこみ上げて喧嘩になってしまったり。

素直に気持ちを伝え合うって、親子だからこそ難しいときもある。お互いに気づかたり照れてしまったり、かえってすれ違うこともありますよね。

今号では、離婚家庭で育った子どもたちに、親の離婚と自分の思春期について聞いてみました(5ページ囲み参照)。できればお顔を見ながらお話を聞きたかったのですが、ちょっと答えづらいこともあったようで、そこは今風にメールと電話インタビューで何回かのやり取りを重ねました。家庭の数だけ事情はあるのですが、子どもたちは親の離婚をこんな風に受け止めて、反抗期や思春期を乗り越えてきたという二つのケースをご紹介します。

子どもの気持ち、もっと聞きたい……これからも時々、掲載していきたいと思いますので、お話を聞かせてくださるお子さんを編集部にご紹介ください。



《ケース1》——メール回答より——

永遠に続きそうな思春期に ピリオドを打つのは 自分自身の経済的自立

Teufelさん
男性・21歳
(大学3年生)
東京

始めに。私にとって両親の離婚という「出来事」自体は昔のことであり、その古ぼけた記憶を手繰り寄せ書き記すことは非常に困難な作業であります。また日常生活の中で立ち止まって両親の離婚を内省し表現するのは、精神的な負担が極めて高いことともご理解ください。それ故、多くの暗喩を用いることとなりましたが、その中に意識的であれ、無意識であれ現在の率直な心境がちりばめられていることをどうか重ねてご理解ください。(原文のまま)

◎父親の不在、意識はしなかったが……

私は現在、母と3歳上の次姉と暮らしています。姉たちは学生時代から、私と母とは別に2人で暮らしていましたが、7歳上の長姉が2年前に結婚をしたのを期に次姉が家にもどってきて、今の3人の共同生活が始まりました。

両親が離婚したのは確か6歳か7歳の頃のこと。私が小学校に入る頃のことです。どのように離婚を知らされたのかはよく覚えていません。たぶん、それ以前から父親があまり家にいなかったため、父親の不在をとりたてて感じなくなっていたこともあるでしょう。でも、よくわからないながらも、自分だけは特別な、でも反対になにか惨めな気持ちになりました。そして同

時に、“選ばれし人間”であるかのような錯覚にも陥りました。聖人伝やサクセスストーリーにありがちな、困難や喪失感の克服の第1段階が天与されたかのような、そんな気分だったわけです。

このとき長姉は中学生で多感な頃、次姉も小学校高学年でしたから、複雑な思いがあったのかもしれませんが、そのあたりのことを互いに話したことはありません。長姉は父親とのコミュニケーションが続いていましたし、次姉は私以上に離婚を相対化できていなかったように思います。

母は生活を支えるのに必死で、離婚から2年後、区営住宅へ引っ越した頃、少しは経済的余裕が生まれたような記憶があります。余裕といっても明日の飯に困るといふ窮乏からは解放されたという程度のことです。父親からの養育費はおそらく皆無だったでしょう。

その後、私が両親の離婚という観念を理解するのは、4～5年の歳月がかかったように思います。ささやかな贅沢、平穏な精神を手に入れたのは、反抗期を過ぎた17、18歳の頃だったのではないのでしょうか。

◎「社会的にまっとうな生活を送らない」という方法で抵抗

思春期の初期の頃は、なんともいえない虚脱感と劣

等感を強く感じていました。それがやがて周囲への反発という形で顕われて、家族に対する暴力、不登校、ひきこもりなど、「社会的にまっとうな生活を送らない」という方法で抵抗することになります。

第一次反抗期「怠さ」が10～13歳。不登校がちになって、昼夜逆転の引きこもりになり、とにかく時間が過ぎるのを待ちました。この時期が最も自分の精神に大きな影響を与えたかもしれません。毎日ワイドショーを見たり、深夜番組を見たりして、肉体的にも精神的にもどんどん不健康になっていきました。

第2次反抗期「怒り」が14～15歳。1年半休んでいた中学に復帰し、思春期にはありがちですが、少し悪ぶって学校で迷惑をかけることを生き甲斐にしていました。

第3次反抗期「焦燥、不安」は15～17歳。入学した都立高校を1ヶ月で辞め、アルバイトしては散財するという生活を送ってました。やはりこのままアウトローをやっているのか不安になり、いろいろ考えるようになりました。

以上の思春期の主に第1次において、母親との葛藤のほとんどが執り行われました。これを通して母の既存の価値観は大きく揺らいだようですし、またそれに伴い彼女には友人が増えていったようでした。

◎「離婚」は避けられない選択肢のひとつ

その後、これらの行為を引き起こした感情を言葉に代理させようと読書に勤しんだ時期もあります。

サルトル「実存主義とは何か」によって自身の人生を決定していくのは自身の投企（engagement）であることを、ドストエフスキー「罪と罰」によって青年期の自我の肥大とその悲劇のプロセスを、フロイト「精神分析入門」によって人間が「分かっていると思っている」ことの途方もない小ささを学びました。硬派な古典、哲学を読むことで新たな言葉を獲得し、概念が広がり、理解できない言葉の不自由さに苦悶することもまた当時は楽しかったものです。大学への憧れというのもこの頃から湧いてきました。

でも、かくのごとき所作も所詮、両親あるいは母親の鏡像としての自分に突き動かされての行為だったのかもしれませんが。

いまは両親の離婚とは、「大人が立ち向かわねばならない不可避的な選択肢の一つを選んだのだ」と考えています。それを彼らは選んだにすぎないと。

両親の離婚で影響を受けたことは「これ」と特定することはできません。いまの私の価値観の“すべて”であるとも言えるし、影響していないと思っているこ



とが影響しているかもしれませんが、またその逆もあり得ることだからです。

いまの私は、このまま思春期が永遠に続くのではないかと、周囲をはじめ本人も心配になっているところです。

◎母の再婚相手との同居、いまはまだ考えにくいが……

以前、やむにやまれぬ事情で、父親に一度だけ会う機会がありました。2時間程話しましたが、感情的なコミュニケーションをお互い避けたために非常によそよそしい、取るに足らない話をして過ごしました。私にとって「父」が不在であることは昔も今も、そしておそらくこれからも変わらないような気がいたします。彼はその後、再婚して、さらに離婚したそうです。これについては「やるねえ！」程度の感想です。

母親が再婚することについては、現実には極めて想像しにくいですね。能うる限り想像力を働かせても、母親の再婚相手と同居するには若干の心理的抵抗が生まれるような気がします。私自身が経済的にまだ自立していないこともその要因かもしれません。でもきっと、最終的には母の自由意志に委ねることになるのでしょう。母親の夢はいつか“ヨン様”に会うことらしいですが、それがかなうことを願っています。

私自身は、大学卒業後、まだ特定の業界や職種は考えていませんが、一応名のある一流企業と呼ばれるところに就職し、社会の仁義を学びたいと考えております。その後どうしていくかは、基本的に環境を生かすタイプなので、その時の出会いや自分の思いつきに任せていこうと思っています。

将来は金髪美女と結婚し、モナコに住んで昼は読書かクルージング、夜は知人を招いてパーティーという資本主義ならではの生活を夢見ておりますが、父親には「私の収入は当てにしないでください」と伝えたいですね。



《ケース2》——電話インタビューより——

人生の目標ができたいま、 乗り越えられないものはないと思う

◎私の再出発と父との再会

今年の春、私にとって2度目の高校の入学式がありました。久しぶりに親子3人が揃った日。照れくさかったけれど本当に嬉しかった。両親が離婚してからも、パパから私にまるでコンタクトがなかったわけじゃありません。中学の頃の私はものすごく荒れていて、パパから電話がかかってきても拒絶して話しなかった。でも、私が選んだ二度目の私立高校の入学金はパパが出してくれました。感謝しています。

父が家を出たのは10年前のこと、ひとりっ子の私が幼稚園年長組のときでした。他の女の人のところに行ったんだ、と周りの大人の人のから聞きました。両親の離婚後、度重なる転校、荒れた中学校3年間、高校1年生での中退、その後のフリーター生活……と、普通の人よりはちょっとだけ回り道をしたかもしれませんが。でもこの春から通い始めた高校は自分で見つけた“私の道”です。この10年間になければ今の私は存在しません。時間がいろいろな“ぐちゃぐちゃ”を解決してくれたんだと思います。だからもう自分を裏切りません。パパとママが離婚したからじゃない、これが“私の運命”なんだと今なら言えます。

◎幼心に、周囲の噂話がストレスに

パパが出て行ってから、それまで住んでいた社宅には住めなくなって、東北のママの実家で祖父母と暮らし始めました。幼稚園の友達とは「ばいばーい！」と軽い感じで、お別れをしました。それが嫌でも幼い私はママについていくしかなかった。もしあのまま引っ越していなければ、今の私ってどうなっているんだろうって考えるときもあります。

小学校1年の時、ママの仕事の関係で2人で東京に出てきました。でもママは残業が多くて私の面倒をみきれなくなったから、小学校2年のときに私だけ東北の祖父母の元へ戻ったんです。父兄参観日はいつも祖母が見に来てくれたのを憶えています。

ママの仕事が落ち着いて、また中学1年で東京に出てきて一緒に暮らし始めました。転校はすごく大変、でも人の噂はもっと嫌だった。離婚やパパとママのこと、あれこれいろんなことを言われるのが、ものすごくストレスでした。特に子どもは大人の話に敏感だが

ら辛かった。小1のときに一緒だった子たちと中学でまた同じ学校になったから、子どもの間でも昔の噂話がむし返されたりして居心地が悪かったし。

◎ささいなことで毎日、 ママと大喧嘩した中学時代

唯一自分を誉められること。それは中学校3年間、練習の厳しいバレーボール部を続けられたことです。朝から晩まで部活に没頭していました。

その頃、身長も体重もママをとっくに超えていたし、体力もあった。でも心の成長はまだまだだったのかな。毎日、ママとは大喧嘩。口喧嘩から始まって、ママが叩くと私も叩き返してしまうからお互い止まらなくなってしまっ。ママもいつもヒステリックにピリピリになっていたと思います。喧嘩がエスカレートするとしょっちゅう警察を呼んじゃうんです。ママは自分でもわからないうちに警察を呼んでしまうと言っていました。職場にも連絡が行くことがあったらろうし、仕事にも影響していたんじゃないかなあ。

喧嘩の原因は携帯代とか、ささいなこと。それが、どんどんわけのわかんないうちに手や足の出るすさまじい喧嘩になっちゃって。でも、警察はやっぱり大人の言うことを信じるから、親の一言で何度も施設（児童相談所の保護施設）送りになりました。まあ、お互いに傷つけ合っちゃうから、頭を冷やすためには仕方なかったのかも。1週間、施設で保護されていたこともあります。100%私が正しいこともあったんだけどなあ。

一番荒れていた私の中学時代。全てを親の離婚のせいにしていました。離婚したというママの弱点を攻撃することで、私自身が逃げていたんです。でも、あのとき思っきりママと本音を言い合ったから、いまの落ち着いた私がいるんだと思います。

◎自由という不自由に気づいたいま

大好きだったバレーボールの推薦で女子高へ入りました。でもバレー部のトラブルで中退することに。中学からの付属生と高校からの推薦組が部内でもめっちゃったのが原因です。中学生なら仲直りできることが、高校生だと陰湿ないじめになるんです。バレー部がつまらないから学校もいやって感じで。唯一学校で楽

しかったことは放課後のバレーの練習だったんです。

高校を辞めてからは、自分の甘さが出ちゃって昼夜逆転の生活になっちゃって。ママは泣いて祖父母に電話で相談をしていました。だからいつもママと祖父母の3人から責められ、追い込まれていた感じ。反論したくても、もう警察沙汰は避けたくて反抗はしませんでした。家族の誰にも相談できる状態ではなかったんです。

それから1年半ぶらぶらしていました。なんの規制もない自由な生活になって、初めて冷静に自分のことを考えるようになりました。学校に行く必要がないから、起きるのも自由、帰宅時間も自由、バイト代の使い道も自由。でも、逆に放っておかれて自由になりすぎると、だんだん不安になってくるんですよ。自由が不自由に感じられるようになってくる。そのとき、独りで悩んで考えて自分なりの答えを出したんです。2年遅れたけれど、もう一度高校へ戻ろうと。将来のためにまるっきり自由な学校より、少し厳しい学校を選んで再出発しました。

◎ママも パパの新しい家族も 幸せになって欲しい

私には義理の妹がいます。パパはあのときの女性と再婚しました。変な言い方だけど、ママと私を捨てて新しい家庭を作ったんだから、その奥さんと義理の妹に絶対に嫌な思いをさせないでほしい。いまでも幸せかもしれないけれど、幸せでいつづけて欲しい。

ママには仕事にばかり没頭しないで、女としての幸せを考えて欲しいなと思っています。私はもう義務教育を終えたし、自分の目標がちゃんとあるから、いい人がいたら結婚してほしい。でも中学の時には、ママの付き合っていた人にはかなり反抗して、ママを取り合ったりしたんだよなあ……。

いまの高校では美術コースを選択しています。目標は美大へ進学して油絵の勉強をすること。そして海外留学をして、ルーブル美術館に“硝子のピラミッド”

を見に行きます。もちろん本物の絵画もたくさん観たい。

同級生とは2歳違いだけど絶対に大学には行くつもりです。だから、いまは好きなバレーボールより勉強に集中。しなくてはならないことがたくさんあるんです。いまの私は、人生で乗り越えられないものはないんじゃないかなと思っています。

◎ご紹介ください◎

シングルマザーまたはシングルファーザーの家庭で育った子どもたちに、インタビュー形式またはメールや手紙で 下記のような質問に回答をいただき、紙面で紹介して行きたいと思えます。

お答えいただける思春期以降（13、14歳～）のお子さんを、ぜひご紹介ください。

▼ご両親の離婚とあなたに関する質問

あなたが両親の離婚をどんな風と感じ、受け止めて成長してきたか、ぜひ教えてください。そして会報誌「ハンド・イン・ハンド」を通じて、たくさんの離婚したお父さん・お母さんに、ヒントと力をください。

もちろん、答えられる範囲でかまいません。この質問への回答以外に伝えたいことも大歓迎です。

- Q 1. あなたの性別、年齢、学齢を教えてください。
- Q 2. 兄弟姉妹の性別、年齢、学齢を教えてください。
- Q 3. あなたのご両親が離婚（または別居）したのは、あなたが何歳(何年生)のときですか？ また、離婚は、どのようにあなたに知らされましたか？
- Q 4. いま、あなたは父母のどちらと一緒に住んでいますか？（一人暮らしや、その他の方と暮らしている場合も教えてください）
- Q 5. ご両親の離婚による、生活環境、ライフスタイルなどの変化について教えてください。(住まいの転居や転校、祖父母などとの同居、母の就業による生活の変化など)
- Q 6. あなたの養育費を離れて住むことになった父母も負担していますか？
- Q 7. ご両親が離婚されたとき、どんな風を感じたり、考えたりしましたか？
- Q 8. ご両親の離婚が、あなたに一番影響したのはどんなことですか？（もしも引きこもりなどの体験があれば、そのときの状況や気持ちも、差しつかえない範囲で具体的に教えてください）
- Q 9. いま、あなたはご両親が離婚したことについて、どのように考えていますか？
- Q 10. ご両親のいずれかの再婚について、どう考えますか？
- Q 11. 離れて暮らすことになった父母と、その後も会っていますか？ 会っている場合、それはどれくらいの頻度、どんなときですか？ また、会うときにはどんなことをして過ごしていますか？ そのとき、どんな気持ちですか？
- Q 12. いま、お父さんに言いたいことを。
- Q 13. いま、お母さんに言いたいことを。
- Q 14. 俗に言う思春期や反抗期について。これらの時期をどんな風に過ごしているor過ごしましたか？
- Q 15. 最後に、いまのあなたの夢、将来チャレンジしたいこと、教えてください。



家計簿公開

家計簿公開

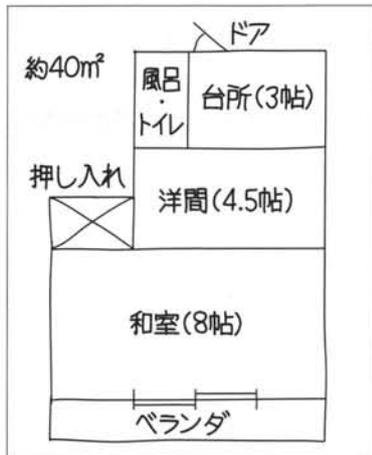
第153号 東京都 F・Nさん

[家族構成]

私 41歳 (生保営業)
娘 5歳 (保育園年長)

[住居]

2K (賃貸マンション)



《家計簿内訳 2005年5月分》

★収入★	
給料 (手取り)	200,000円
夫より援助	120,000円
児童手当	5,000円
合計	325,000円

★支出★	
家賃	86,000円
光熱費・水道代・電話代	30,000円
新聞代	4,000円
生命保険	15,000円
雑費	27,000円
食費	50,000円
交際費	10,000円
通勤定期他、仕事経費	35,000円
保育園代	18,000円
ローン	40,000円
貯金	10,000円
合計	325,000円

離婚成立を目指し、シングルマザーの経済基盤をつくりつつあるところ

もう一緒に暮らせない

別居して2年3ヶ月。夫との性格の不一致に耐えられず、私から申し出て娘と家を出ました。

夫はもともと向上心のない人で、自立心も薄く、“仕事で少々辛い思いをしてもより良い生活を目指す”という気持ちがまったくありません。仕事は与えられた範囲内では真面目にこなしますが、それ以上のことに挑戦しようという気概はなく、趣味もパチンコ、競馬。新聞も本も読まず、話題は芸能人のゴシップと高校生レベルです。

お互いの価値観が大きく違うため、離婚についてもまったく平行線。現状では夫が離婚に応じる見込みは薄いです。夫自身が親元にいたい性格のため、離れて暮らすことを「子どもがかわいそう」と思い込み、「自分自身が子どもと離れるのが辛い」のだということに気づこうともしません。自分が寂しいという感情だけで“復縁”の一点張り。折り合いの悪い父と母を見て育つ子どもが、どれほど不幸かということにはまったく目を向けようとしません。

精神の安定を得たい

夫は実家に戻って暮らしていますが、私の今の住まいから10分ほどのところですので、週に1、2度は子どもも遊びに行っており、寂しがる様子もなくまったくなく別居を受け入れているようです。子どもに悪影響がでないかと心配でしたが、別居によって私が精神的に楽になったことで子どもとより一層よい関係を築くことができている、と今は確信しています。

ただ休日、仕事で疲れているときはあまり相手をしてやれず、申しわけなく思います。生活パターンはほぼ安定しており、平日は6時半に起床、子どもを保育園に預

け、通勤時間30分の会社に9時過ぎまでに向かいます。保育園のお迎えが6時。日曜日は休みですが、土曜は隔週で仕事のため、4時までの保育をお願いしています。

やりがいある仕事に出会って

別居してから国内生保の営業をしています。時間が自由になり、成績次第で高収入を得られ、高齢になっても続けられる……と、まさにシングルマザー向きの仕事です。現在の年収は約300万円。でも、必要経費の負担もあり、成績を挙げられなければ収入は減って、精神的には常にプレッシャーとの闘いです。それでも、やりがいがあり、5年、10年後には年収1,000万円を目指して、ファイナンシャル・プランナーや、さらなる上級資格を得るための勉強中です。

家計は、別居して現在の住居に移った際に家具等を購入したため、そのローンが大きな支出。仕事で疲れると食事を作るのが億劫になり、つい外食も多くなり、食費もかさみがちです。少しでも貯金を増やしたいというのが、一番の悩みでしょうか。ただ、ローンもあと1年で終了。来年は娘も小学生になり、少し余力も出て仕事にも力が注げそうで楽しみです。

いまは、生活費の4割弱を夫に出させて、家賃と保育園代に充てています。私がしっかりとした経済力を身につけて「一切援助は不要」と言えるようになったら、調停または裁判に持ち込んで離婚を成立させるつもりです。

★仕事上の目標もあり、充実した毎日のようですね。疲れたら外食、いいじゃないですか。疲れ過ぎて不機嫌より、少し手を抜いてもゆとりのあるお母さんでいてください。ローンもこれ以上は増やさないと決意、払い終わったらそのぶん貯金にまわすと割り切って。学資も必要になりますもの。(円)

★ 2005年夏合宿のお知らせ／7月30日(土)～31日(日)★
テーマは「アンチ・エイジング」

会場の国立女性教育会館（埼玉県嵐山町）の周りは緑豊かで、近くに渓谷もあるのどかな所です。おいしいお蕎麦屋さんもあり、ちょっと田舎にリフレッシュに来ませんか？ 仲間とのネットワークや役立つ情報も得て、今後の生活を楽しく豊かにしませんか？

「心のアンチ・エイジング」について円より子のお話あり、高齢者施設で理容の講師をなさっている林正和さんや介護タクシーで高齢者に温泉ツアーを提供しようとなさっている石川透さんのお話あり！ また、年齢を感じさせないメイクアップ術の実演もあります。みなさん奮ってご参加下さい。



◆プログラム◆

■7月30日(土)

13:00～受付 (研修棟1Fロビー)
13:30～14:00 円より子あいさつ
14:00～15:00 自己紹介
15:00～17:00 「心のアンチ・エイジング」
講師：円より子さん
※年齢を感じさせない
メイクアップ術の実演も！

17:00～19:30 入浴、夕食
19:30～21:00 懇談会

■7月31日(日)

7:30～8:30 朝食
9:30～12:00 「老後を豊かに
楽しく生きる」
講師：林正和さん
石川透さん

ヘビー
シッターさん
大募集！

◆申し込みの詳細◆

- ◎会場：国立女性教育会館 (埼玉県嵐山町) 東武東上線「武蔵嵐山駅」下車徒歩15分
- ◎定員：大人40名、子ども10名
- ◎参加費：4,000円(1日参加2,000円) 子どもは保険料込で3,000円(1日参加1,500円) ※いずれも懇親会費込 ※食費、交通費は別途負担
- ◎その他：洗面用具、タオル、寝間着等、各自持参。
- ◎申込：申込金1,000円を添え、住所、電話番号、氏名、生年月日を明記し、事務所／野尻まで。申込金をご返却できません。

お申込みは
7月25日(月)
必着！

《ミニミニ・ガイド》

会場近くの「オオムラサキの森」では、国蝶オオムラサキ(上の写真)をはじめ、雑木林にすむいきものたちがたくさん見られます。8月中旬までの暑い時期、クヌギやコナラの樹液が出ている場所でよく見かけられるそうですから、チャンスです。

また、会場裏手の「蝶の里公園」では年間を通じて約60種類の蝶が見かけられ(1日で見かけられるのはせいぜい20種類)、隣接する「ホタルの里」にはゲンジ、ヘイケ2種類のホタルが生息しています。

合宿帰りに、自然の中で深呼吸して帰るのもよいですね。



弁護士二一〇番
裁判所の呼び出しは
放置せずに



〈回答者〉
弁護士 竹川幸子
☎〇六・六三九三・一一三三三

Q 六二歳の主婦です。来年夫が退職します。長年不貞が続き、もう六年家に帰りませんし、その前も単身赴任でした。私は仕事をしています。亭主元気で留守がいいと、単身赴任先を訪ねる事もせず、給料さえくれればと我慢してきました。私は何も悪いことはしていません。なのに夫から何回も離婚を求められています。その都度断り、調停でも離婚を拒否しました。ところが最近裁判をすると言われました。私は裁判所に行かなければなりませんか？ 行かなくても財産分与はもらえますか？

本題にはいりませんが、離婚訴訟は貸金返還請求等一般の事件と異なり、裁判所が職権で探知すべき事件ですが、実際には被告(裁判を起された側)が出頭せず、自分の主張を提出しないうちに、裁判所は夫の一方的な言分だけで判決が出来ますので、裁判所からの呼び出しを放置するのは極めて危険です。また、夫が慰謝料や財産分与の提案を裁判所としたとしても、請求する側がそのための手続をしないと裁判所は離婚判決で慰謝料や財産分与の支払いを同時に命じるわけはありません。貴女が応訴しなければ裁判所は離婚を認めるかどうかの裁判しかすることができず、何もなくても裁判所が財産分与を命じてくれることはありません。もともと、離婚判決が確定してから改めて慰謝料請求・財産分与ということも可能です。離婚したくないという声のトーンは落ちるけど、もし裁判所が離婚しろというなら財産分与して下さいという申し立てもできます。

A 離婚につき貴女の同意が得られない以上、どうしても離婚したい夫さんは裁判をするしか方法がありません。裁判所が離婚を認めるかどうかは裁判上の離婚原因があるかどうかによります。別居が六年も続き、その前から単身赴任先を訪ねることもなかったのなら、もう修復の見込がない破綻した婚姻として婚姻を継続し難い重大な事由に該当すると思われるます。

しかし、貴女の場合は夫さんの不貞が破綻の原因ということなら、有責配偶者の離婚請求として、別居期間が相当期間続いた、未成年の子がいない、精神的・経済的・社会的に過酷な状況に置かれるという要件を充たさなければ裁判所は離婚を認めません。破綻主義

